

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	こどもケアセンターほっと大田		公表日 年 月 日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		スペースとしては十分なくらい確保できている。広いため、歩く・走ることに必要な筋力が自然と身に付くようになっている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		必要に応じて1対1の対応を行い、お子さん同士の関わりなどを大切にすために、1人の支援者が複数の利用者で過ごすこともある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		施設内はバリアフリーとなっている。	お子さんの発達に合わせてたおもちゃの準備を行っているが、おもちゃの増加に合わせて、収納場所の整理整頓が課題としてあがる。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		活動室は毎日の清掃を行っている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		個別に使用できる部屋を確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>		PDCAサイクルを行い業務改善を進めているが、職員全体いきわたるような仕組みとなっていない。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		保護者向け評価表を行い、結果を職員内で周知、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	朝のミーティングや業務の開始、終了時などの時間を利用して、職員、パート職員が意見できる時間を作っている。	左記の意見を参考に、業務改善につなげていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>	第三者による外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		外部研修、法人内研修に参加している。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		<input type="radio"/>		支援プログラムの作成を行い、公表準備中である。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>			個別支援会議をより積極的に開催できると良い。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		保育園経験のある職員等にも意見をもらい、作成している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		非常勤職員、正規職員関係なく活動プログラムを検討立案している。チーム全体で活動プログラムを実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		年度始めに、年度の活動内容を計画し、実施している。過去の活動内容は記録に保存し、固定化しないよう工夫している。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子さんの状況に応じて、必要な支援を組み立てている。集団から学ぶこと、個別で学ぶことを考え計画作成を行い支援している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日に行われる支援内容や役割分担について職員間では前日までにメールで共有している。当日朝のミーティングにより打ち合わせを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に打ち合わせや振り返りを行っている。全員の参加ができないため、必要に応じて、メールで情報を共有している。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		利用記録に記載しない内容で必要な情報はメールで共有している。	これらの情報を支援の検証・改善につなげるため、記録の更なる工夫は必要と考えられる。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		よく理解したものが参加し、スタッフ間で共有している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		医療機関とは連携をとり支援体制を整えている。地域の部分が弱いところである。	保健師等、地域の方々との連携が弱い。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		幼稚園等に通う際、必要に応じて、情報共有している。今後、積極的に行いたいと考える。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		特に医療的ケアがあるお子さんについては、基本的な技術だけでなくなぜそのような処置を行っているのか、理由もしっかりお伝えしている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			地域の児童発達支援センターとの連携については情報を得ていきたいと考える。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		近隣の特別支援学校からの交流を受ける機会が定期的に得られている。	近隣の保育園の交流は行っているが頻度は少ないため、今後も積極的に行っていきたい。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や面談時に話し、共通認識が持てるように努力している。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		当事業所はペアレントトレーニングは行っていない。その都度、お子さんの状況を確認し、ご家族へ助言したり一緒に考えている。		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		面談や契約時にはご家族に協力してもらい時間を確保している。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談内容や日々の支援の中からお子さんの成長を促せる内容を盛り込んで作成している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		説明し、同意をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		こちらから相談を持ち掛けてお子さんのことについて一緒に考えるなど話をするように心がけている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○	事業所内のイベントにご家族（きょうだい含む）も共に参加いただき、ご家族同士の交流の場を設けている。	父母の会、保護者会の開催はできていないため、今後、設けていきたい。
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○	日々の利用時のご家族との情報共有の際、電話やメール等を通じての相談に応じ、対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		昨年度に比べ、活動概要を発信する頻度が減少しているので、頻度を検討したいと考える。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○	十分注意し、取り扱っている。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○	それぞれのご家庭の状況に応じて、連絡方法や手段を変更している。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○	今年度の夏祭りには民生委員の方にご参加いただいた。	コロナ禍以降、地域交流が減少しているため、今後、再開、拡充していきたい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○	看護師を中心として情報収集を行い、職員全体で情報共有を行っている。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○	災害時を想定した訓練、準備を行っている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		家族への周知が不十分である。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		
52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○	活動や食事など必要時は座位保持椅子を使用することを明記しているが、必要以上に乗車時間が長くないよう支援を工夫している。		